

## 八ヶ岳山岳ガイド協会名誉会長 米川正利さんと語る

# 長野環境人土

自然に優しく、暮らしを楽ししく

## 小林光さん対談企画

八ヶ岳山岳ガイド協会名誉会長で半世紀以上、山とともに生きてきた米川正利さん(81)―茅野市宮川―は山と登山客のために効果的に機能するガイド協会をつくろうと1990年、県や八ヶ岳にかかわる団体、仲間呼び掛けて同協会を立ち上げた。八ヶ岳の山岳ガイドの草分け的な存在でもある米川さんはその役割を「第一に山のため、そして登山客の安全のため」ととらえている。

すべては山と人のため―。米川さんは山岳ガイドとして常に学びの姿勢を持ち続けてきた。植物、鉱物、景観、環境の変化など八ヶ岳について幅広い知識を持ち、登山客に伝え、コミュニケーションを交わしながら山を歩く。登山客の好みも千差万別でコケに興味を持つ人、鳥や動物が好きな人



八ヶ岳連峰の山岳ガイドとして多くの登山客を案内してきた米川さん

無事できてほしい」と願い救助に向かうが、遭難者が命を落とす悲しい結末に直面することもある。何度経験しても慣れることはない」と実感を込める。だからこそ登山客に対して、山に入る際の守るべきマナーを伝える役割も山岳ガイドが担うべきと考えている。登山道ではない場所に立ち入ることは遭難に直結する危険な行為であり、山の自然を荒らす行いでもある。

登山を一層楽しいものにするためにも、遭難防止のためにも、山の常識やマナーを身に付けるためにも、山岳ガイドとともに山に入る意味は大きい。

(野村知秀)

118面に対談

# 登山客と山岳ガイド ともに成長

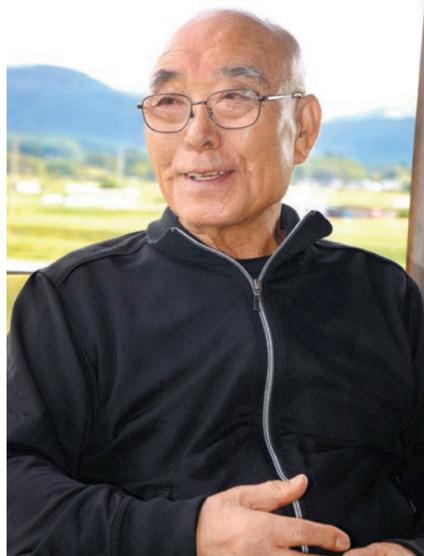
## 長野環境人士

自然に優しく、暮らしを楽しく

小林光さん

対談

米川正利さん



米川正利さん 81

八ヶ岳山岳ガイド協会名誉会長。黒百合ヒュッテの2代目として約40年間、山小屋を経営

### 欧州にも匹敵する協会をつくりたい

小林 八ヶ岳の山岳ガイドとして草分け的な存在の米川さんですが、幼少のころから山は身近にあったのですか。

米川 父が八ヶ岳の国有林から材木を引き出す会社を営んでいましたので、小学校に入学する前から父や職人さんと一緒に登っていましたね。小学校6年生の時に父が亡くなり、その後、母が1956年に山小屋「黒百合ヒュッテ」を開きました。当時中学生だった私も手伝いにいきましたね。山小屋で本格的に働き始めたのは20歳のころ。それから75歳までかわりませんでした。半世紀以上、山とともに生きてきました。

小林 八ヶ岳山岳ガイド協会の発足に深く関わったようですね。

米川 黒百合ヒュッテを開いたこの年、日本隊がマナスル(ヒマラヤ山脈に属する山、8163m)初登頂を果たし、登山ブームが起きました。しかし、欧州のようにガイド業を職業とした組織は当時はなく、概念もあいまいだったように記憶しています。八ヶ岳山岳ガイド協会ができたのは90年。「山と登山客のために効果的に機能する欧州のガイド協会に匹敵するようなものを日本にもつくりたい」という友人の故長谷川恒男さんの思いに共感し、長野県や

### 勉強が欠かせない

小林 山岳ガイドの役割をどうとらえていますか。

米川 第一に山のため。そして登山客の安全のためです。それだけにガイドは質が大事です。知識が豊富で話術に長けたレベルの高いガイドさんと一緒に登る登山はとても楽しいものになるはずですよ。

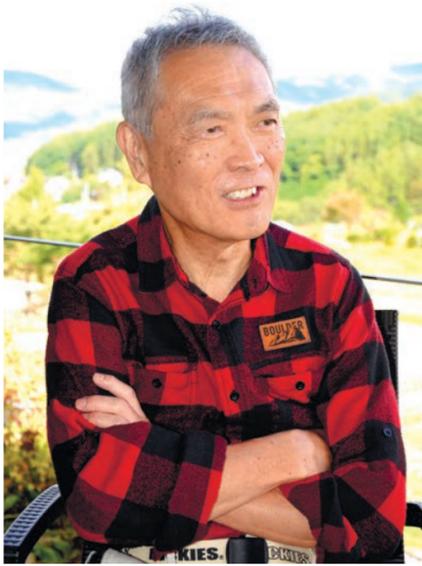
小林 ガイドさんと登ることで登山客の目が肥える。そうすると、ガイドさんにもさらに知識を増やし、経験を積んで登山客に楽しんでてもらおうとする。そういったウィンウィンの関係が理想ですね。

米川 山岳ガイドは山だけでなく、山、動物、植物など自然に関して幅広く知っている必要があります。勉強が欠かせません。登山客とガイドがともに成長していく関係はいいですね。

### 荒れてしまった山

小林 長年、山岳ガイドとして、山の環境の変化を感じることはありませんか。

米川 以前、母が山小屋を始めたりは自然がもっと濃かったように感じています。それが、人が天然林を伐採していくようになり、変わりましたね。小林 具体的には樹種が変わったということでしょうか。



小林光さん 74

元環境省環境事務次官。東京大先端科学技術研究センター研究顧問。茅野市行政アドバイザー(環境分野)

## 山のため 安全のために

米川 そうです。標高でいえば2000m以上は自然林が残っていますが、2000m以下は天然の広葉樹はあまりなくなり、ほとんどがカラマツです。人工林もかつては人々が炭や薪として木材を活用していましたが、そうした機会が減って山が荒れてしまいました。高齢化や後継者不足で山の手入れや管理が難しくなっているんですよ。自然林は自然の中で残るべきものが残り、淘汰されるものが淘汰されて新陳代謝が図られていきます。人工林は人が手を入れているので、手入れがなければいけません。

### 天皇陛下が皇太子だった頃にご案内

小林 山岳ガイドのどこにやりがいを感じますか。

米川 なんといってもいろいろなお客さんと接することですね。登山客といっても目的は様々で森林が好き人もいれば、コケが好き人もいます。鳥や動物が好きな人がいれば、昆虫が好きな人もいます。一緒に登り、いろいろな話をして仲良くなり、しばらくしてその人がまた八ヶ岳を訪れてくれる。私ももっと楽しんでおられる。私ももっと楽しんでおられる。



八ヶ岳や山岳、自然への思いを語る。米川さん(左)と小林さん(右)11月19日

### マナー伝える役割

小林 登山客に期待したことはありますか。

米川 昔の登山者は山登りの経験がある人と一緒に登るのが一般的で、山の常識を理解しているグループが多かったのですが、最近はその常識やマナーを知らずに入山するグループや個人が目立つようになった印象があります。山を登るときに守るべきマナーを伝える役割もガイドにはあるのでしょうか。

小林 初めての登山や何回かに1度の登山ではガイドさんを頼んで一緒に登ることが大切なのですよ。それにガイドさんと一緒に登る方が山登りも楽しそうですね。登山者自身のレベルアップにもつながります。山のマナーも自然と身につきますよ。ちなみに見落としがちなのが山のマナーというのは、どのようなことがあるのでしょうか。

米川 登山道ではない場所、立ち入ってはいけない場所に平気で分け入っていくことですね。登山道から外れると、遭難のリスクが一気に高まります。また、山本来の植生を踏み荒らすことにもつながります。植物の採取はもちろんダメですが、草花に手を触れることもやめてほしいですね。里から登ってきた人の手には、高山帯や山の中の植物にとって好ましくない菌がついていることがありますので、自然を大切に、山に入らせていただくという謙虚な気持ちを持って登山を楽しんでほしいと思います。

## 入らせていただく謙虚な気持ちで



当時皇太子殿下だった天皇陛下(左)を案内する米川さん(右)2017年9月、西天狗岳山頂

小林 山岳ガイドとして一番の思い出は何ですか。

米川 2017年、天皇陛下がまだ皇太子だった頃にご案内させていただきました。黒百合ヒュッテに1泊していただき、天狗岳(2646m)に登られました。夜はサンで飲みましてね。やはり最も印象に残る方です。

小林 緊張されましたか。

米川 お会いするまではとても緊張しましたが、気さくにお声を掛けていただいたおかげで登山中は落ち着いてガイドを務めることができました。自然や山に対する知識が大変豊富で驚かされました。

### 遭難者の無事願う

小林 登山者が遭難した際には山岳ガイドの皆さん、山小屋の皆さんは救助隊として救助に当たりますか。

米川 はい。とにかく遭難者に無事でいてほしいという思いで救助に出ます。亡くなった方を発見したり、救助した時は生きていたけど、その後、亡くなったと聞いたりするのは何度経験してもとても悲しいものです。